

# 令和8年度《学校経営計画》

名張市立北中学校

学校長 野田 朋憲

## 1 学校教育目標

夢をもち、心豊かで、たくましい生徒の育成 —感謝・感動・つながり—

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教職員像、保護者・地域像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で安心して学べる学校</li> <li>・生徒一人ひとりの心の居場所がある学校</li> <li>・地域に開かれた学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学び考え、自ら行動する生徒</li> <li>・なかまとつながり、学び合う生徒</li> <li>・心身ともに健康な生徒</li> </ul>
○教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム北中の一員として、つながり高め合う教職員</li> <li>・生徒の課題に寄り添い、生徒を主体に実践する教職員</li> <li>・生徒・保護者・地域に信頼される教職員</li> </ul>
○保護者・地域像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つながり合い、学び合う保護者</li> <li>・子どもを見守り育てる地域</li> </ul>

## 3 学校の現状

○生徒会のめざす目標「あいさつのできる学校」「校歌が歌える学校」「掃除のできる学校」「いじめのない学校」の継承された取組を大切に、北中学校職員が生徒とともに活動を通じて、成長できる良い循環ができています。

○安全・安心な学校を目指す中で、日常生活から自己存在感や充実感・達成感を感じることができるよう、活躍の場や居場所づくりをさらに進めていく必要がある。

○平和学習や防災学習等を通じて、命を大切にしていくためのメッセージや行動をより多くする必要がある。

○不登校生の大幅な減少は厳しい現状にある。特別な支援が必要な生徒も年々増加しており、通級による指導の重要性が高まっている。

○北中学校区の小中一貫教育、コミュニティ・スクールの取組については、つながりが深まり、さらに充実したものにするための方策が必要である。

○目指す生徒像の実現に向けて、学校の教育力を高めていくために、今後も日頃からの地域とのつながりを大切にし、人的・物的資源を有効・大切に活用していく必要がある。

## 本年度の改善方策

○学級・学年集団づくりを再確認し、日々の授業をはじめ学級活動、学校行事、生徒会活動等を通して、生徒同士のつながりと心の居場所づくりをさらに進めていく。生徒一人ひとりに活躍する場をつくり、学校が充実し、魅力ある場となるよう工夫、改善をすることにより、不登校やいじめの未然防止につなげていく。授業においては、生徒同士のつながり・学びが深まり高め合えるよう、タブレットの活用も含め、さらに生徒が主体的に活動できるよう、指導方法の改善や学習意欲向上に向けて取組を進めていく。

○生徒をよく観察し生徒の課題に寄り添い、報・連・相や情報共有を図り、担任や学年を中心にチーム北中として指導、支援を進めていく。教育相談を充実させ、生徒の変化に気付き、未然防止、早期に対応していく。また、SSW・SC、警察、児童相談所等の関係機関との連携を大切にし、ともに課題解決に向けて粘り強く取組を進めていく。

○コミュニティ・スクールについては、中学校区の学校長とCS会長との懇談会をもち、中学校区の活性化を図る。防災については、地域の方と中学生の話し合いの場を設定し、より参画しやすい環境をつくる。小中一貫教育については、充実した研修にするための打合せの工夫を図る。縦と横のつながり・連携をさらに密にし、9年間の子どもの学びや育ちをイメージ・意識した取組を行う。

○教職員が心身ともに健康に職務を遂行するために過重労働対策を推進していく。

## 4 重点的な取組事項

番号	内 容	実施期間				
		6	7	8	9	10
1	わかる授業づくりと学習意欲の向上	○	◎	◎	○	○
2	豊かな人間関係と居場所づくり	○	○	◎	○	○
3	生き方を学ぶ教育活動の充実	○	○	○	○	○

## 5 令和8年度の重点目標

<b>重点的な取組事項－1</b>	わかる授業づくりと学習意欲の向上
<b>A 今年度の成果目標</b>	
「授業内容がほとんど理解できている」「授業に主体的に取り組んでいる」の項目を <u>85%以上</u> にする。	
<b>B 目標実現に向けた取組</b>	
具体的な方策	
①	学習指導要領を踏まえ、生徒同士のつながりや学びが深まるよう、タブレットの活用も含め、指導方法の改善や生徒の学習意欲の向上につながる授業改善を進めていく。
②	学習規律の徹底と、学びに参加した成就感・満足感を感じることによって、子どもの主体的な学習姿勢（一人ひとりが活躍できる場の設定、発問の工夫など）を校区小学校と連携しながら培う。
③	家庭学習習慣の定着に向け、校区小学校と連携しながら保護者への啓発及び具体的な取組をすすめる。基礎学力の定着や、長期休業中・テスト発表期間に地域の方とともに補充学習等を実施する。

<b>重点的な取組事項－2</b>	豊かな人間関係と居場所づくり
<b>A 今年度の成果目標</b>	
Q－U調査の満足群を <u>全学年68%以上</u> にする。	
<b>B 目標実現に向けた取組</b>	
具体的な方策	
①	「肯定的な振り返りによって生徒相互が認め合う」「教師が褒める、励ます、認める」等の場面設定を意識的に行い、生徒の達成感・満足感を高める。
②	Q－U調査、教育相談を通して生徒の想いや状況を把握し、生徒の様子についての職員間の情報共有を密にし、組織的なはたらきかけ、生徒同士がつながる声かけの工夫をする。
③	生徒の自治活動の活発化を図り、教師が率先した姿を生徒に見せながら、生徒会の「4つの目標」のうち、「いじめのない学校」の達成意識(そう思う)を60%以上 (R7年度:55.0%) にするための取組を行う。

<b>重点的な取組事項－3</b>	生き方を学ぶ教育活動の充実
<b>A 今年度の成果目標</b>	
「あなたは、自分の将来に夢や希望を持って学校生活を送っていますか」の項目を <u>80%以上</u> にする。	
<b>B 目標実現に向けた取組</b>	
具体的な方策	
①	将来的に地域や社会に参画・貢献する意識を高め、コミュニティ・スクールをツールとして、地域と協働した取組を進める。(防災について、地域の方とともに企画・運営に携わり、防災訓練を計画する。)
②	面接や面談の機会を工夫し、将来自己実現が可能となるように、自己表現力を伸ばす場の設定や取組をすすめる。
③	ふるさと学習「なばり学」を意識しながら、職業や働くことについての調べや聞き取りの学習等、人と職業との出会いを工夫する。
④	小中一貫教育を推進し、ランドデザインをもとに9年間の子どもの学びや育ちを見通した取組を進めていく。

## 6 学校における働き方改革の推進に向けた取組

上限時間に基づく目標		
成果指標①	1人当たりの月平均時間外労働	30時間以下(30時間以下の範囲)
	年360時間を超える時間外労働者数	0人 (変更不可)
	月45時間を超える時間外労働者の延べ人数	0人 (変更不可)
具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムカードの活用により教職員が自らの在校等時間を把握し、業務を計画的に遂行することにより、勤務時間をセルフコントロールできるようにする。</li> </ul>	
休暇取得促進の目標		
成果指標②	1人当たりの年間休暇取得日数	11日以上(各学校で設定)
具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休暇が取得しやすい職場の雰囲気づくり、体制づくりを進めるための声かけを行う。</li> <li>・夏季休暇を全員が取得する。</li> </ul>	
学校独自の取組		
活動指標	設定した日の定時に退校できた職員の割合	80%以上
	予定通り休養日を実施できた部活動の割合	100%以上
	放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合	80%以上
	放課後に開催して90分以内に終了した会議の割合	100%以上
具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退校日を設定し、計画的かつ連携をとり、業務を進める。</li> <li>・部活動ガイドラインに基づき休業日を設定する。</li> <li>・会議の在り方を検討し、開催にあたっては企画委員会等で事前に議題を整理・精選し、タブレットの活用、提案文書のペーパーレス化の徹底を図る。</li> </ul>	

## 7 コンプライアンスの推進に向けた取組

具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に数回研修会内に位置づけ、教職員同士ふりかえりや語り合う場面を設定し、職場で違反者を出させない職場風土づくりを行う。</li> <li>・個別面談の際にコンプライアンスに関わる意識の確認や取組を確認する。</li> <li>・県・市教委からの通知により、朝の打ち合わせで注意喚起・意識の再確認を行う。</li> </ul>
--------	---